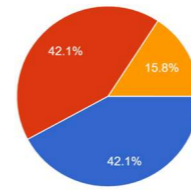
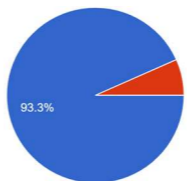
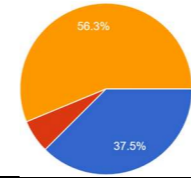
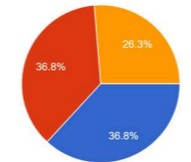


重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び最終評価に向けた改善策等
1 授業実践力の向上	① 【教科の視点を踏まえた授業づくり】 重度重複障害のある児童生徒の実態に即し、教科の視点を踏まえた授業づくりを工夫するとともに児童生徒の生活上又は学習上の困難さを踏まえて自立活動の目標を設定し、自立活動で獲得した力を、他の教科学習や生活場面で発揮し、指導の効果を高める。	教務課 研究推進委員会  教務課	重度重複障害のある児童生徒の実態に即し、教科の視点を踏まえた目標や指導内容の設定、評価の在り方に着眼した授業を実践できたと考える教員の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	回答教職員18名 ア あてはまる・・・38.9% イ ややあてはまる・・・55.6% ウ あまりあてはまらない・・・5.6% ア+イ 94.5% ＜評価A 目標達成＞ 	学部研究では、合わせた指導において国語科の視点で単元を組み、授業実践に取り組んだ。研究では対象児童生徒の実態を整理し、教科の視点をもって授業の目標を考え授業を実践することが定着しつつある。しかし、職員アンケートには「目標が適切だったのかと不安に思うことがある」と答えた職員もおり、今後も引き続き研修会や授業実践を重ね検証していく必要があると考える。
	② 【GIGA スクールの推進】 GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器活用に関する知識・技能を身に付け、授業実践力を高める。	G I G A校内研修推進委員会	現在自立活動で取り組んでいる内容が、児童生徒の生活又は学習場面に結びついていたと考える教員の割合が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	回答教職員19名 ア あてはまる・・・27.8% イ ややあてはまる・・・61.1% ウ あまりあてはまらない・・・11.1% ア+イ 88.9% ＜評価A 目標達成＞ 	本校の教員は、児童生徒の実態把握を丁寧に観察する上で、様々な研修会等の知見を活かし、自立活動の目標を設定している。教師のアンケートからは「身体のストレッチや体位変換、揺れや振動の刺激をとり入れた活動を行うことで、授業の取り組み意欲が向上した」、「腕の可動域を維持し緊張を軽減するストレッチを毎日行うことで、美術や特別活動においてはさみやのり等の教材を使用する際の手の機能や巧緻性の向上につながっている」等自立活動が、児童生徒の生活や学習場面に結びついている成果を実感している。今後も医療等外部専門家との連携事業や校内研修等を実施する中で、自立活動の指導について研鑽を行い、学びで得た知識や技能を教師間で共有しながら指導の効果を高められるように努めていく。
2 安全・安心、活き活きとした学校づくり	③ 【安全な医療的ケア体制の強化】 保護者・教職員・学校看護師間の連携を更に強めるとともに、緊急時対応訓練や研修を通して知識・理解を深め、安全な医療的ケア体制の強化を図る。	医療的ケア委員会	児童生徒の主体的な活動や意思表示を引き出すためにねらいを明確にしたうえでICT機器を活用した実践を行った教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	回答教職員17名 ア あてはまる・・・23.5% イ ややあてはまる・・・52.9% ウ あまりあてはまらない・・・17.6% エ あてはまらない・・・5.9% ア+イ 76.4% ＜評価A 目標未達成＞ 	児童生徒の実態に合わせて、ICT 機器を活用している教員が多く見られるようになった。また、従来の使い方以外にも視界に制限のある児童生徒への視覚支援や児童生徒の意欲を引き出すために装置を作成し、活用する事例もある一方、従来通りの活用で留まっている教職員もまだ多くみられる。今後は、校内研修や外部講師派遣を継続して取り組み、児童生徒の主体的な活動や意思表示を引き出すことに重きを置いた活用方法を教職員間で互いに情報を共有できるように、GIGA 校内研修推進委員で検討していきたい。
	④ a 【実際に即した危機管理】 より実践的な訓練やシミュレーションを通して、教職員及び保護者の危機管理意識を高めると共にマニュアルの有効性を検証し、適切な対応ができるようにする。	指導課 P T A	研修や情報共有等を通して医療的ケアについての理解と関心を深め、安全なケア体制づくりに貢献できたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	回答教職員19名 ア あてはまる・・・42.1% イ ややあてはまる・・・42.1% ウ ややあてはまらない・・・15.8% ア+イ 84.2% ＜評価A 目標達成＞ 	今年度より119番通報を軸とした緊急時対応訓練を行っており、他学部が協力し合えるような設定で訓練を実施したり、その後の他学部との話し合いの時間を作ったりしたことで、研修をとおりて情報共有や理解を深めることにつながったと考えらえる。今後は、研修会や医療的ケア指導アドバイザー巡回事業等での学びを共有する中で、医療的ケアを必要とする児童生徒に対する災害時の対応方法等、専門家から得られる専門的な学びを深め、児童生徒が更に安全・安心な学校生活を送ることができるように努めていく。
			【教員】 地震訓練やシミュレーション訓練に参加し、緊急時の対応が理解できたと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	回答教職員19名 地震訓練やシミュレーション訓練に参加し、緊急時の対応が理解できたと感じる教職員の割合が ア あてはまる・・・36.8% イ ややあてはまる・・・47.4% ウ あまりあてはまらない・・・10.5% エ あてはまらない・・・5.3% ア+イ 84.2% ＜評価A 目標達成＞ 	地震避難訓練に参加し、緊急時の対応が理解できた教員の割合は目標に達した。アンケートより、事前に確認したマニュアルを基に教員の動きや避難までの流れが理解できたという意見がある一方で、訓練当日に児童生徒の欠席者がいたことによる実際との差や、教員間で役割分担し、個々に応じた避難準備やその場での臨機応変な状況判断が必要であると感じたという意見も多く見られた。後期は、今回の反省を基にシミュレーション訓練を計画、実施し、避難方法の理解を深めること及び個々に適切な対応ができるように取り組んでいく。

<p>④ b</p>			<p>【保護者】 引き渡し訓練や伝言ダイヤル体験において、学校との連絡方法を理解できた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】</p>	<p>回答保護者 15名 ア あてはまる・・・93.3% イ ややあてはまる・・・6.7% ア+イ 100% &lt;評価A 目標達成&gt;</p>  <p>引き渡し訓練参加保護者 7名 ア 一斉配信メールで確認・・・85% イ 確認していない・・・6.7%</p> 	<p>引き渡し訓練の体験において、学校との連絡方法を理解できた保護者の割合は目標に達した。また、昨年度から災害時に備えた、保護者用のマニュアル「災害時における連絡方法・安全確認について」を配付し、緊急時の連絡方法を確認できるようにしたことや、それをもとに訓練を継続したことで、今年度は「あてはまる」と回答した保護者の割合が大幅に増加し、緊急時の学校との連絡方法理解が深まったと考えられる。 今後も引き続きすべての保護者への正確な情報を伝えることで災害に対する意識を高めていく。</p>
<p>⑤</p>	<p>【効率的・協働的業務の推進】 業務改善に向けて、分掌業務のデジタル化を推進し効率化を進め、業務を分担して行えるようにする。</p>	<p>教頭</p>	<p>会議のデジタル化を進め会議のペーパーレス化をはかり、会議の時間短縮と業務の効率が上がったと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】</p>	<p>回答教職員 19名 ア あてはまる・・・36.8% イ ややあてはまる・・・36.8% ウ あまりあてはまらない・・・26.3% ア+イ 73.6% &lt;評価B 目標達成&gt;</p> 	<p>職員会議の資料を事前に teams にあけておくことで、会議の時間が大幅に短縮され、会議が早く終わった時間を別の作業時間にあてるなど、業務が効率化されてきたと実感をもつ教職員が多くなってきた一方、まだ業務の偏りや平準化については課題があると考えられる。 今後は各課長からのヒヤリングを参考に業務の平準化の推進や事務手続きの簡略化などできることを進めていきたい。</p>